

2024年度 研修実施計画

I 2024年度 研修計画

1 授業研究

(1) 研究主題について

ともに学ぶ楽しさを味わい、主体的に活動する子どもをめざして
～子どもから出発する授業～

(2) 主題設定の理由

本校では、昨年度から算数科を切り口にし、『ともに学ぶ楽しさを味わい、主体的に活動する子どもをめざして』という主題を掲げて研修を進めている。『ともに学ぶ』とは、課題解決を図るため、自分の考えの根拠をもとに、友だちと思考を共有・比較することを通して学びを深め、広げていくことと捉えている。そうした深い学びを通してよりよく問題解決することができ、「わかった」「できるようになった」「新しい考え方を知ることができた」ということに、ともに学ぶことの楽しさを感じる。続いて、『主体的に』とは、子どもたち自身が学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげようとすることと捉えている。「次につなげる」というのは、算数科の場合で言うと、よりよい解決方法を求めたり、新たな問いを見いだしたりすることである。このような子どもから出た問いや疑問などをもとに組み立てる授業のことが、副題として設定してある「子どもから出発する授業」のことである。

現行の学習指導要領では、学校教育で育成を目指してきた「生きる力」を具現化したものとして、資質・能力の3つの柱を以下のように示している。

- ・「何を理解しているか・何ができるか」（知識・技能）
- ・「理解していること・できることをどう使うか」（思考力・判断力・表現力）
- ・「どのような社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（学びに向かう力・人間性等）

これらの3つの柱の主語は「教師」ではなく「子どもたち」であり、子どもたちが「どのように学ばばよいか」という子どもの目線で、教師が授業改善に臨む必要がある。そうした中で、学習したことを身近な事象に活用して思考するような課題を考えたり、子どもたちから出てくる疑問をもとに学びを深めたりしていけるような「子どもから出発する授業」を目指すことが重要であると考え、本主題を設定した。

昨年度の全国学力・学習状況調査の解答分析では、記述問題において、立てた式を言葉で説明できていなかったり、算数用語を正しく使えていなかったりする解答が見られた。こうした課題を改善していくうえで、日々の授業において自分の考えを既習の学習用語を使って表現すること、そして、一つの解き方だけでなく複数の解き方でも考えることが大切である。算数用語を正しく使うことに関しては、自分の考えを分かりやすく説明・表現する力に繋がっていくものである。複数の解き方でも考えることに関しては、_____。全体交流で複数の意見を出させただけになってしまっていることが多く、出てきた自分と違う考え方をしっかりと自分のものにできるように、ふり返りで学習内容を整理する時間を確保したり、「わかる」から「できる」になるように、解き方を指定して適応問題に取り組ませたりする必要がある。

昨年度の研修の成果としては、主に、「ともに学ぼうとする姿が見られるようになってきたこと」である。ペア・グループ学習を取り入れるねらいについて校内研修で共通理解を図り、教師がそのねらいを明確にもって指導にあたったことや、子どもたちに、ペア・グループ活動の様子を相互に見合う場を設けて自身の話し合いの進め方をふり返らせる等したことで、子どもたちの意見交流がより活発になってきた。ただ、課題についても明らかになってきた。それは、「基礎学力が低く、自分の考えをもつことができていない」ことである。自分の考えをもち、それを友だちと共有・比較することによる学びの深まりや広がりにはあまり繋がっていない。また、「頭で分かっているでもそれを整理したり、分かりやすく伝えたりする力が弱い」ということも見えてきた。今年度は、ともに学ぼうとする意識面の成果に加え、一人ひとりが自分の考えをしっかりとめるよう手立てを講じたり、自分の考えを分かりやすく伝えられるような表現力を伸ばしたりして、昨年度までの研修の成果にさらに積み上げをしていきたい。

(3) 算数科におけるめざす子どもの姿

低学年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な言葉や数・式・図などをもとに自分の考えをもてる子 自分の考えを発表し、人の話を聴くことができる子
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や数・式・図・表・グラフなどを活用して自分の考えをもてる子 算数用語を用いて自分の考えを説明し、人の考えを自分の考えと比べながら聴くことができる子
高学年	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や数・式・図・表・グラフや既習事項などを活用して自分の考えをもてる子 算数的用語を用いて自分の考えを説明したり、人の考えを自分の考えと比べながら聴いたりして、よりよい考えを導き出せる子

(4) 「読み取る」「かく」「学びあう」の学年部別目標

	読み取る	かく	学びあう
低学年	<ul style="list-style-type: none"> 分かっていること、問われていることを整理しながら読む。 簡単な絵や図から、量の大きさやデータの個数を比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図、式、言葉や文などを用いて、自分の考えをかく。 	<ul style="list-style-type: none"> 聴き手を見て、最後まで文の形で話す。 理由をつけて話す。 話し手を見ながら聴く。 友だちの考えでわからないことについて質問をする。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 順序を表す言葉や文末の表現、段落の構成などに着目しながら文章の題意を読み取って立式する。 図や表、グラフなどからデータの特徴や傾向を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 図、式、言葉や文、表、グラフなどを用いて、自分の考えをかく。 算数用語を用いて順序よく自分の考えをかく。 	<ul style="list-style-type: none"> 聴き手の反応を確かめながら話す。 算数用語を用いて順序よく話す。 図、式、表などを用いて理由をつけながら話す。 話し手を見て反応しながら聴く。 自分や友だちの考えと比べながら聴く。

<p>高学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・順序を表す言葉や文末の表現、段落の構成などに着目しながら文章の題意を読み取って、絵や図、表などに表してから立式する。 ・図や表、グラフなどからデータの特徴や傾向を読み取ったり、複数の資料を比較して違うところ、似ているところなどを読み取ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に応じて、図、式、言葉や文、表、グラフなどを効果的に用いて、自分の考えをかく。 ・算数用語を用いて、筋道を立てて自分の考えを簡潔に分かりやすくかく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き手の反応を確かめながら話す。 ・算数用語を用いて根拠を明らかにしながら、筋道を立てて話す。 ・図、式、表など、必要な資料を活用しながら理由をつけながら説明する。 ・友だちの考えを理解しようと、話し手を見て反応しながら聴く。 ・自分や友だちの考えを比べて、共通点や相違点を考えながら聴く。
------------	---	--	--

(5) 研究内容

① 基礎・基本の定着に向けた取組

- ・授業の開始5分程度で「読み上げ計算シート」や「百マス計算」で計算の反復練習をして、基礎学力の定着を図る。
- ・児童のつまずきを事前に把握するために、レディネス問題を適宜行い、授業改善を図る。
- ・自主学习プリントコーナーを設置して、子どもたちが、自身が課題とする単元や自身に合った量の学習に取り組めるようにする。また、家庭学習強化週間を設け、家庭学習の環境整備について家庭に働きかける。
- ・ふり返りを記述のみにこだわらず、適応問題をさせることで学習状況の定着を確かめる。

② 課題解決に向けて筋道を立てて考えることができる学習の手立て

- ・自分の考えを伝える際には、以下の数学的な考え方の話型の例を示して、筋道を立てた説明の仕方を意識させる。
 - ①「〇〇が～だから、□□も、…」(類推的な考え)
 - ②「〇〇のときも、□□のときも、△△のときも～だったから、☆☆も…」(帰納的な考え方)
 - ③「もし〇〇が～だったら、□□は(も)、…」(演繹的な考え方)
- ・問題解決までの過程を言葉や数、式、図、表などを適切に用いて説明させる(かかせる)。
- ・具体物の操作や実験などの具体的な活動を重視する。
- ・ICT機器で思考ツールを活用して、共通点や相違点などを整理しながら考えを視覚化させる。

③ 考えを伝えあい、ともに学びあう学習の手立て

国府小学校における学びあうとは

ペアやグループ、全体において考えを伝えあう学習活動で、児童どうしがそれぞれの思考を共有・比較することを通して、考えが広がったり、深まったり、変化したりすること。

- ・その学習活動でのペア・グループ活動のねらいを明確にして授業に取り入れる。
- (例) ○自分の考えを確かにして深めるために。(自信)
- 他の考えに気付き、思考を広げるために。(ヒント)
- 考えの相違点・共通点を聞き合うことで思考を深めるために。(比較)
- 考えを出し合い協働して解決するために。(協働、練り上げ)
- 新たな考えを創り上げるために。(新たな発想)
- ・算数用語を使って伝えあう場を設定し、算数用語を使って自分の考えを表現する力を身につけさせる。
- ・考えがもてない児童も授業に巻き込む。「何が分からないのか」「どこまで分かったのか」「どう考えようとしたのか」の意見も全体で共有して学びあいにつなげる。

(6) 研究方法

① 全体研究授業

【全体研究授業】

算数科…2本 人権…1本 を実施。

【研究授業にかかわって】

- ・自習及び支援体制を整え、全職員が授業を参観する。
- ・教育委員会教育指導課より講師を招聘し、事後検討会を実施する。事前検討会は学年部を中心に行う。ただし、授業者が希望した場合、自主学習会で実施する。
- ・事後検討会においては、参観者から出された課題をもとに、授業改善に向けて全体で話しあう。「自分だったら」という視点で研修をして、自身の今後の授業改善に繋げていけるように「自分化シート」でふり返る。
- ・全体研究授業を実施しない学年は、学年部別研究授業を実施する。
- ・全体研究授業、学年部研究授業をしない学級においても、重点単元を設定して年間1本は指導案を作成し、授業改善に努める。
- ・全学年とも指導案は細案とする。

② ノート指導研修会

- ・年度初めにノート指導研修会を実施して、全学年でノートの書かせ方の共通理解をはかる。その後は必要に応じて実施する。
- ・定期的に学年部で児童のノートを持ち合い、交流をはかる。

③ 授業力向上にむけた取り組み

- ・個々の授業力向上をねらいとして、学期ごとに2週間の授業参観の機会を設定する。
- ・全教職員が自由に授業を見合う。参観者は授業者へ指導力向上シートを提出し、意見交換する。
- ・授業力 up5、国府小学校授業づくりの十か条プリントをもとに授業づくりの共通理解を図り、定期的に重点目標を掲げて取り組む。
- ・自主学習会の実施。

④ 研究成果の検証

- ・学習の様子や算数科の学習に関するアンケートを通して、子どもの意識面の実態把握を行う。
- ・全国学力学習状況調査やスタディ・チェック等の分析を全教職員で行う。分析結果をもとに本校児童の課題を確認し、授業改善をはかる。
- ・各学期のたしかめのテストに全学年で取り組み、学力の伸びをはかる。

⑤ T T 指導

- ・4、5年生算数科でT T 指導を実施し、特にC・D層の児童へのきめ細かな支援をして、学習内容定着をはかる。

⑥ 各種研究発表会及び研究会への参加と還流報告会

- ・鈴教研委託発表会や各市町の研究発表会への参加を、教職員全員で行う。

(7) 年間計画

	実施内容 (予定)
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度研修実施計画作成 (4月) ・算数ノート指導研修会 (4月) ・学調、みえスタディ・チェックの実施 (4/18) 自校採点及び結果入力と分析 ・授業力向上にむけた取り組み (ぐるぐるウィーク) ・全体研究授業・学年部研究授業 (教科・人権) ・自主研修会、算数科実践交流会 ・算数科アンケート実施 (4月、7月) ・夏期休業中の補充学習 ・学調、みえスタディ・チェックの分析
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研究授業・学年部研究授業 (教科・人権) ・授業力向上にむけた取り組み (ぐるぐるウィーク) ・自主研修会、算数科実践交流会 ・算数科アンケート実施 (12月)
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回みえスタディ・チェックの実施 (/) 自校採点及び結果入力と分析 ・授業力向上にむけた取り組み (ぐるぐるウィーク) ・自主研修会 ・算数科アンケート実施 (2月) ・各学年及び研究のまとめ (2月中) ・来年度の方向性 (3月上旬)

2 より充実した校内研修に向けて

(1) KOU タイム・朝の学習・読書について

	朝の読書	KOU タイム・朝の学習
目的	本に親しみ、読書の習慣を身に付け、言語力・思考力・集中力をつける。 (小説、字が多い本に限定)	<ul style="list-style-type: none"> ・国語 (15分×3日) ・低学年は算数・国語の基礎基本の定着

日時	月・木 8時20分～8時35分までの15分間	火・水・金 8時20分～8時35分までの15分間
内容	自分の席で、自ら選んだ本を静かに読む。 (一人2冊本をもっている状態が基本) 2冊選んでも、その本を読み続ける。	・国語(漢字・読み書き・ローマ字) ・読売新聞学習プリント ・視写プリント
指導	※8時20分に子どもたちを着席させ、朝読を開始させる。	新聞プリントの指導方法は研修部より提案し、校内で統一する。

(2) 図書館教育について

- ・図書室を効果的に活用した授業づくりを推進する。
- ・図書の充実と図書室や学年文庫等の学習環境を整備する。
- ・読書習慣の育成に取り組む。
- ・図書館だよりを通じて、保護者への啓発に取り組む。

(3) 家庭学習について

- ・家庭学習の内容や量、取り組む時間等、学年の実態を踏まえて系統的に指導する。
- ・家庭学習の習慣を身につけるための取り組みを進める。「チェックシート」の活用。
- ・生徒指導部と連携し、スクリーンタイムについても家庭へ協力を呼びかける。
- ・『家庭学習の手引き』を作成し、家庭との連携を図る。
- ・自主学習の推進を図る。

(4) 夏期休業中の補充学習について

- ・夏期休業中においては、2日間の補充学習を実施し、支援を必要とする児童の基礎的知識・技能の向上を図る。
- ・学習ボランティアを活用して、学校と地域が協力して学習にあたる。

(5) ICT活用について

- ・ICTを効果的に活用した授業作りを推進する。
- ・算数科における効果的なICTの活用のための職員研修を行う。

(6) 校内掲示について

- ・校内掲示板や階段などを有効活用して、算数用語や計算問題、児童の手本ノートなどを貼り出して、既習内容を日常的に目に触れるようにする。

(7) 自主研修会について

- ・自主研修会を定期的実施し、日頃の実践を交流したり、悩みを相談したりしながら指導力の向上を図る。